

講演会

講師 静岡県幼児教育サポートチーム
浜松市秋野不矩美術館長
鈴木 英司 氏

演題 園の要としての主任の役割



○ 主任は何をする人？

- ・主任は、子供たちや職員の心に灯をともし人であり、未来に芽を出す種を蒔く人でもある。自分がかげがえのない立場にいることを認識し、日々の保育や職員との関わりを深めてほしい。子供や職員に対し、どこまで寄り添い共に伸びようとするか、どう支えていくかなど、「育ての心」を持ち続けることが大切である。

○ 各種マネジメント

- ・補遺（漏れた事柄を後から補うこと）とリフレーミング（違う角度から物事を見ること）は、新たな価値の創造につながる。そのため支援が必要な子への対応は、個人ではなく個と個をとりまく環境（社会）との関係性の中で複雑に絡み合って問題が生じていると捉え、スモールステップで解決を図っていくとよい。

○ コーチングでコミュニケーション

- ・コーチングとは、「人の目標達成を支援する」という意味で使われている。コーチングの基本は、「問いかけて・聞く」であり、対話を重視したり、相手から選択肢を引き出したりすることである。職員の悩みを傾聴し、コミュニケーションを大切にしながら主体性を育てていくとよい。

○ SEL (Social Emotional Learning) が保育の質を高める

- ・認知能力 (IQ) に対し、非認知的能力 (EQ) は、人生を豊かにするための能力である。幼児期に育てられた非認知的能力は大人になっても失われないことが確かめられており、非認知的能力を育む幼児期に携わる教師は、重要な役割を担っている。
- ・SEL は、「自尊感情や対人関係能力を育てる教育」とも言われ、非認知的能力を育むことができる。SEL により、学力の向上や健康の促進、幸福感の高揚などの成果につながり、SEL によるメリットは大きい。子供に対し褒める言葉でなく認める言葉掛けをすることで、子供たちの自己有用感を高めることになる。

○ 講話を受けて（自己課題や方策、自園への取り入れ方について）

- ・「上手だね」「すごいね」と褒めるよりも、「あなたのおかげでこんなに幸せ」「とても嬉しい」などと思いを言葉にして伝えることで、子供の自己有用感につながる。教師の声掛けや関わりは、大人になっても心に残り続けるということを意識し、これからの教育に必要な「環境をつくり、観察し、伴走して育てる教師」を目指したい。
- ・教諭への助言は子供の育ちにつながるため、よりよい言葉掛けを考える必要があると感じた。主任として職員を内面から捉え、共感する力、傾聴する姿勢を心掛け、寄り添いながら関わっていききたい。